



JA十和田おいらせ 広報誌

Agressh

1 2024 月号
No.166

地域と農業を結ぶ、ふれあいと絆の発信源“あぐれっしゅ”

Agressh

1 2024 月号
No.166

JA十和田おいらせ



特集 新春座談会「私たちがつくる持続可能な地域農業」

〒034-0081 青森県十和田市西十三番町4-28 TEL.0176-23-0311 FAX.0176-24-1829
 ■E-mail:sonun@jatowada-o.or.jp ■印刷：JA十和田おいらせ

お年玉 **ビッグ** プレゼント付き 頭の体操 クロスワードパズル

二重マスの文字をA~Eの順に並べてできる言葉は何でしょうか？

1	6		14	17
	B			E
2		12		
3	9		18	21
	10		15	
4	7	13		19
	8	11		20
5	C		16	A

ヨコのカギ

- 最低気温が0度より低い日
- 現代人は電子—に囲まれて暮らしています
- 水筒に入れます
- ヒヒーン!といもなく動物
- スマホに入れたり消したりします
- ベッドが2つある部屋
- 類のこと。—ダンス
- スラロームやモーグルなどの種目があります
- 人がいっぱいに入っている状態
- 西アジアの国の1つ。首都はアンカラ
- 空気が乾燥しているので—粉をつけた
- 節分の豆を—の数だけ食べた
- 実がなるまでの期間が短めの品種のこと

タテのカギ

- フキの花茎のこと
- 銀世界を眺めて悲しみます
- ガイド—を片手に観光地を巡った
- 安倍川にして食べようかな、磯辺巻きもいいな
- 日没のことを日の—ともいいます
- 雪だるまを英語(片仮名語)でいうと
- 佐渡島にはこの鳥の保護施設があります
- 漢字には音読みと—読みがあります
- 平方根を表す記号
- 魚目に「弱」と書きます
- 中国や台湾の旧暦の正月

先月号答え ABCDE

ハツヒノデ
応募総数:77通

カ	ズ	ソ	コ	ウ	ム
ガ	イ	ド	コ	タ	ツ
ク	ヒ	ホ	ウ		キ
ツ	ユ	ハ	ラ	イ	
エ	キ	バ	チ	カ	
ヒ	ダ	リ	フ	ネ	ン
メ	シ	イ	デ	ン	シ

応募方法

- 下記必要事項をご記入のうえ、郵便またはFAX、ホームページからご応募ください
- クイズの答え
 - 郵便番号・住所・電話番号
 - お名前(フリガナ)・年齢・性別
 - ご意見・ご感想をお寄せください

応募締切:2024.1月31日(水) (当日消印有効)

【郵便ハガキ】
〒034-0081
青森県十和田市西十三番町4-28
JA十和田おいらせ 企画広報課

【FAX】
0176-24-1829
おかけ間違いにご注意ください

【ホームページ】あぐれっしゅリンクページ
<https://www.jatowada-o.or.jp/>

*頂いた個人情報はこのたびの用途以外には一切使用しません。

ご応募いただいた方の中から、抽選で15名様にプレゼント!!

<p>特賞</p> <p>2名様</p> <p>極上の味わい! すき焼き肉セット (10,000円相当)</p> 	<p>1等</p> <p>2名様</p> <p>これであなたち お料理上手! 調味料セット</p> 	<p>2等</p> <p>3名様</p> <p>みんな大好き! 希望の雫 (100ml×6本)</p> 	<p>3等</p> <p>3名様</p> <p>食べて溜まるう!Aコープ商品 「なべ焼きうどん」 (8食入)</p> 
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

Wチャンス 5名様
QUOカード(1,000円分)

*写真はイメージです
当選者発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます。



特集

新春座談会

「私たちがつくる
持続可能な地域農業」

異常気象や生産資材・燃油等の高騰、進まぬ価格転嫁など課題が山積している
現在の地域農業は、経営努力だけでは維持がとても難しいです。
農家組合員や地域住民、市場関係者らの協力がより重要となるなかで、
現状の課題を再認識し、どのような取り組みが必要か、みなさんに語ってもらいました。



代表理事組合長 畠山 一男
令和2年 組合長に就任
座右の銘
「継続は力なり」

日頃からJA事業へのご理解とご協力をいただき、心から感謝いたします。本日は皆さんの地域農業に対する考えをお聞きし、今後のJA事業へ生かしていきたいと思っております。よろしくお願ひします。

現在の地域農業について

【王明戸さん】

皆さんは農業や食について、普段どのような事に注目していますか。

【篠崎さん】

本県の特産野菜はナガイモ、ニンニク、ゴボウ、ダイコン、ニンジン、の5品目です。いずれも生産量は全国トップクラスで、出荷最盛期には相場決定の主導権を握っています。量だけではなく品質の面でも優れていて、他産地と比べた時、全国の市場関係者の多くは青森県産を高く評価しています。農家の皆さんには、自信を持ってどんな野菜を作ってもらいたい。



まだまだ売れるし、もっと高く売れる。その可能性があるのが青森の野菜です。農家戸数は減少していますが、野菜専業農家の規模拡大は進んでいます。
【王明戸さん】
対して危惧していることはありますか。



市場関係者代表
青森合同青果株式会社
しのだきまさたか
代表取締役社長 篠崎真孝さん
座右の銘
「山高ければ谷深し
谷深ければ山高し」

◇令和4年に会社創業50周年の大きな節目を迎えた
◇経営理念「農」と「食」を結び支え幸せに』のもと、生産者と消費者の双方が満足できる取引実現に力を入れる

みんなが納得する
価格形成の実現を

【篠崎さん】

物流の2024年問題です。本県は消費地である、京浜・中京・関西から最も遠隔地にある産地です。鮮度を保つたまま消費地へ運ぶことができるのがトラック輸送の強みですが、何もしなければ輸送力が14%減少するとの推計があります。トラック業者も苦しく、運賃を上げないと運んでくれなくなる想定されますが、コストが上がっても価格に転嫁しにくいのが現状です。解決策は今のところ見えていませんが、市場に課されている問題と認識しています。



【組合長】

以前、野菜の高騰がニュース番組で取り上げられていた際、篠崎社長はこの高値がそのまま農家の所得になるわけではない。これでも生産費に届いていない。ありがたいと思つてこの値段で食べてほしいと話しており、とても感動しました。JAもチャンスを見つけて農家の現状を発信していかなければと思います。



畜産農家代表
ささき はじめ
佐々木基さん
座右の銘
「志は高きこと八甲田山の如く
心は清きこと奥入瀬川の如く
気宇廣きこと三本木平の如く(加藤訓)」

◇黒毛和牛繁殖／23頭、短角牛肥育／月1頭出荷
◇令和5年青森県肉用牛共進会
チャンピオン賞(農林水産大臣賞)受賞
◇風景や景観資源を活用し、観光業とツアーを企画し短角牛の宣伝なども行う

経営のリスク分散と
景観資源の活用を進める

【専務】

作物の形態にもよりますが、成物が過剰なほ場もあります。化学肥料だけではなく、地域で生産される畜産堆肥からも肥料成分は確保できます。JAは土壌診断・堆肥診断で、コスト軽減を継続・後押ししていきます。

【斗沢さん】

コスト高に加えて、異常気象で規格外品なども増え、なかなか所得が上がらないのが現状です。最低限生活できるレベルの価格になればと願っています。さらに、20代の若手が少なく、このままでは集落も維持できるのだろうかという不安もあります。今後の活動のために、農業という分野の魅力あるものにしていかなければならないと思います。

【佐々木さん】

僕はすでに、農業は自分で資産を作る魅力ある産業だと思つています。その資産の価値は相手が決めるのではなく、自分で価値を付けて販売することが出来ます。生産者と卸業者、飲食店、消費者、どこかが責任を負うのではなく、平等に経費分を上乗せすることが必要です。また僕は飼料の高騰を受けて、発酵させたおからや地ビール・ワインのカスなど国産副産物を飼料に取り入れました。結果、十分な費用削減ができることがわかりましたので、地元の出荷できない食材を飼料にさせてもらい、牛を通して畑に還元する循環型農業も実現できると期待しています。地元副産物で代用できたら安定した価格での牛づくりもできるはずですよ。



【専務】
食品残さや発酵食品を確保するにも、ルートを確認しないと普及も定着もできません。各JAや企業と連携して方向性を模索する必要があります。

【松尾さん】
消費者は理由が分かれば価格が上がっても納得すると思います。お店で選びたいのは、鮮度と安心感の持てる地場野菜。自分が好きで安心して食べられるものを望んでいると思います。安いものばかり買つては、廃業する生産者が増えたり、輸入品が増えたりします。生産者には諦めないでがんばってほしいし、消費者はそれを理解しなければなりません。



米・野菜農家代表

とざわ まさかず
斗沢正和さん

座右の銘
「やりたいと思えば挑戦すればいい」

- ◇JA青年部長として活動中
- ◇水稲4.5ha、ゴボウ1haを栽培
- ◇ナガイモやヤーコンなどのほか、新品種米「はれわたり」を生産し「かだあ〜れ」にも出荷する

リーダーシップを発揮し 地域を盛り上げたい

理想的な関係性

【下明戸さん】
たくさんの問題や課題があるなかで、生産者と消費者、市場やJAはどのような関係性を築くことが理想的だと思いますか。

【斗沢さん】
生産者と消費者がお互いに納得する価格で販売できることが一番だと思います。生産者は出荷するうえでのルールを守り、安全でおいしい野菜を作ること、安全に、良いものは市場や消費者に評価してもらい、残さず食べてもらえるようにしたいです。

【下明戸さん】
ご自身で作つた農作物をアピールするために、やってみたいことなどはありますか。

【斗沢さん】
令和5年は新品種米「はれわたり」に挑戦しました。自分がおいしいと思つて作つているので、県内外だけではなく海外の人にもアピールして食べてほしいです。おいしいものはみんなと共有したいです。

【松尾さん】
食に携わるすべての人が、なにかの同じ目標に向かって取り組むことが理想だと考えます。しかし、行政が積極的に動かないとなかなかつにまとまりません。行政の農業に対する関心や熱意が重要になってくると思います。消費者に商品の価値を伝え、理解してもらつて前向きな営農につなげてほしいです。

食の楽しみ方を 多くの人に伝えたい



消費者代表

野菜ソムリエプロ

まつお
松尾ゆり子さん

座右の銘
「人とのつながりや絆を大切に」

- ◇野菜ソムリエコミュニティTOKYOの副代表を務める
- ◇マインズ広報誌の料理掲載や子どもたちの料理教室などのほか、店頭などで試食販売を行い、食の魅力発信に尽力している

【下明戸さん】
コロナ禍で物が溢れる中、県内の飲食店で引き合いが強まったそうですね。

【佐々木さん】
首都圏の荷動きは止まっています。ですが、地方は動いていました。苦しい状況ではありましたが、地域の人に自分の存在を知ってもらうことができたと思います。東京一本だったら、コロナ禍で辞めていたかもしれない。地元の流れを持てたのが大きかったです。

【下明戸さん】
コロナ前は地元で生産された牛が、地元の人のお口に入る機会が少なかったと思います。外への発信も大切ですが、地元から広めることも必要ですね。

どのような 取り組みができるのか

【下明戸さん】
理想を実現するために、それぞれどのような取り組みができるか考えますか。

【佐々木さん】
牛舎の設備環境も他の農家に比べたら小さいです。そこで何を売りたいか、何を考えた時に「僕の成長をブランド」として自分自身を売りに出しました。取り組んできたことや思想を伝えて、支援してください。20代という若さで進めて、買ってもらって、大きくしてもらえたらと思っています。

【松尾さん】
消費者が生産者と一緒に野菜を栽培するということが流行っています。種を植え付けて収穫するまでおよそ半年かけて、農業の苦勞や楽しさを体験できる取り組みは良いことだと思います。店頭ではなぜ野菜が高くなっているのか、ストーリーを伝え、食への提案をすることで、消費者意識は変わってくると思います。お店では特別感を出すために、根菜を売り出す「根菜デー」、若手農家が売り出す「若手農家デー」など、週や月ごとに興味を引くイベントを開催することも良いと思います。テーマを決めながら開催すると、意識づけもやすくなるはずです。

【斗沢さん】
令和5年から、「かだあ〜れ」で青年部員の特設コーナーを設置してもらいました。若手生産者や盟友が作った商品をPRすることを目的としています。今後は来客者だけでなく、SNSを通じて幅広くPRすることが大切になると感じます。また、若手だけではなく、ベテラン農家も含めてみんなで取り組まないと地域全体を盛り上げていくことはできません。失敗を失敗と捉えず、成功に代えていくため、昨年のポテトチップスのコラボのように、生産者や組合長の顔をパッケージで全面にアピールするなど、アイデアを出しながら色々なことに挑戦していきたいです。おいしいものに溢れている青森県をもっとPRしたいです。

【篠崎さん】
卸売業者にとって理想の産地は「成長力」があつて「パートナーシップ」を結べるしつかりとした組織体です。卸売市場には青果物流通の安定という社会的責務があるため、荷の確保は最優先事項です。全国的に青果物の生産量が縮減する中で、確固たる生産基盤を維持し積極的に生産振興へ取り組む産地には大きな魅力を感じます。JAは農業者や経営者の育成に力を注ぎ、支援する地域農業の中核であつてほしいと思います。

【下明戸さん】
佐々木さんは、ご自身での販路開拓やコロナ禍で経営を持ちこたえた経験からどのようにお考えですか。

【佐々木さん】
生産者は頼り切りになつてきている方が多いのかなと思います。価格が上がらないと嘆くばかりではなく、自分たちの力で上げていく努力も必要だと考えます。自分で生産したものを自分の力で販売する力や、販路も大事です。経営の仕方を一つに絞るのではなく、何個かにわけてリスク分散していかなくてはなりません。また、どのようにしてできた食材・料理なのか、背景が伝わるマーケティングも大事ではないでしょうか。同じ商品を提供しても、背景説明がある無しでおいしさは変わります。



【専務】
「春の来ない冬はない」と言いますが、農家は春さえ待てないそんな状況にあります。しかし、この教訓をどう次につなげていくのか、改善できるのが農家です。斗沢さんが言っていたように、失敗は失敗で終わらせず、成功に変えていく。
JAも解決策を見出して、農家につなげ、再生産確保を実現していかなければなりません。



司会
フリーアナウンサー
かみあきと はなえ
上明戸華恵さん

座右の銘
「忙中閑あり」

- ◇調理師、野菜ソムリエプロの資格をもつ
- ◇食育講座などを通して、子どもたちに食の大切さを教えるほか、農福連携の周知にも力を入れる

【佐々木さん】

現場の状況や情報が共有されていないということが、生産者やJA、行政との間に様々な認識の差を生んでいるのではないかと思います。生産者がSNSで発信しているJAや行政がフォローしていないのが現状です。僕は関西の業者さんとよく情報交換をしています。今はWebを活用して、遠くの人も顔を合わせて情報共有ができるようになりました。外で活躍している人材を借りて、活動につなげていくのも面白いのかなと思います。生産者だけではなく、行政やJAの若手職員などを巻き込んでいけたら良い方向に進んでいくのではないかと考えています。

【専務】

JAでも生産者とJA、全国の消費者のネットワークづくりをして、新鮮でレベルの高い情報を共有していきたいと考えます。情報交換をしながら、問題を少しずつ解決し、令和4・5年は苦しかったけど、令和6年は良かったなと言える年にしていきます。

【篠崎さん】

令和5年はとても暑く野菜も高かったため、例年に増してテレビ局や新聞社からたくさん取材を受けました。そのたびに「生産者は生産費が増えている分、所得が減っている。高いから買うのを控える」というのは止めてほしい」と訴えてきました。酷暑の中、汗を流しながら大変な思いで作業をしているという背景を消費者にもっと知ってほしいです。消費者は価格形成のメカニズムを知らない方が多いので、メディアやSNSを活用しながら常に発信しています。微力ではありますが、農家の代弁者として今後も続けていきます。

【上明戸さん】

チャンスを見つけて主張を述べるとか、価格のメカニズムや生産現場の状況を伝えていくなどのほかに、SNS「ミ」に対しての働きかけも必要だと感じます。

【組合長】

昨年、全中主催の大きな大会が二つありました。そこで、JAグループは政府に、農業者が再生産していくための価格形成を、消費者に理解していただけるよう、働きかけていかなければならないと訴えました。政府は農業基本法を見直したいと取り組んでいます。国も危機感を感じているから動いていると思いますし、どこまで変わるかわかりませんが、期待しているし、取り組みを応援していきたいと思っています。

当JAでは、令和6年4月から10支店ごとに支店運営委員会を設ける計画です。野菜を得意とする支店、畜産を得意とする支店、稲作を得意とする支店、それぞれ支店ごとに特徴があります。組合員やJA役員、JA協力組織の代表者が集まり、どのように変革していけるかを定期的に協議し、当JA全体の改革につなげていく考えです。農業者を助けてほしいです。日本の食料も守ってほしい。そう強く思っています。

今後の目標・展望

【佐々木さん】

僕が畜産業に従事するこれからの30〜40年間は海外にも視野を向けて活動する計画です。海外に行った経験を活かしながら、日本の和牛で外貨を得て、地元に戻元していきたいです。今、但馬牛がパブルなのは海外にマーケットを持っているからです。

【篠崎さん】

青森合同青果の企業理念は「農」と「食」を結び支え幸せにです。農は生産者、食は消費者の方。二つを結び、わが社を通じて関わった人がみんなハッピーになるようにということを目指しています。そしてわが社が出荷者からも買手からも必要とされる存在となることです。作ってくれる農家、買ってくれる人、食べてくれる人、みんなが納得する価格形成を実現していきたいです。やっぱり青森合同青果だよなと思ってもらえる仕事をしていきたいです。

【専務】

皆さんから挑戦したいという強い思いが伝わってきました。JAは現在の農畜産物生産のほか、手軽に年中供給できる食材を作りたいです。管内産の原料を使ったニンク味噌やゴボウを使ったおこわの素など、流行しているものを作り、売っていききたい。管内のゴボウは糖度も高くて絶品ですが、そのような開発を単体でやるのは難しいです。ビジネスパートナーを見つけて挑戦し、食材の多様性を広げていきたいです。

【上明戸さん】

中食など簡単にできておいしいという商品の需要が高まっていますから。新商品の期待も膨らみます。

十和田市のと畜場も企業が変わり、海外輸出も可能になってくると思うので、とても期待しています。十和田市で生産したもので外貨を稼ぐ環境を、畜産から作るのとても大きなことです。日本独自のモノづくりをして、海外に売っていく。僕らの力で太刀打ちできるようにになれば、次の世代に残せるものも大きくなるのかなと思っています。



【上明戸さん】

佐々木さんは、観光と農業を結び付けたいという思いもありますよね。

【組合長】

皆さんの思いが力強いなと感じました。農業で生計が成り立つと、自然と後継者も育っていくはずですから。今の農業は生産費を賄えないから大きな問題となっている。それが解決することで、日本も地域も盛んになっていくのだからと夢を持っています。それぞれが、機会を見つけて、「地域が生きていくためには農業が必要なのだ」と声をあげて意識統一していければ、想いは実現できると思っています。JAの使命として、農業者の所得向上を常に意識しながら、全力で取り組んでいきます。

【上明戸さん】

今回の座談会で印象的だったことは「価格形成について価格の理由・理解を求め情報発信する」「輸入に頼らない地域のスクラムづくり」「作って終わりではなく、多角的な取り組みの必要性」の3つです。来年度以降、県の基本計画（案）で、下北・上北地域において「強みを生かした持続的な農林水産業の発展・地域特性を生かした農林水産の体質強化」というものが農林水産の重点的に取り組む事項に挙げられています。強みとはなにか、特性とはなにか、一人ひとりが他人事ではなく、自分事として捉え、取り組んでいくことが必要だと感じます。



代表理事専務 斗澤 康広

令和2年 代表理事専務に就任
座右の銘
「人には平等にチャンスが与えられている。チャンスに対して 挑戦を惜しむな。継続と努力は力なり。すると道は必ず拓ける。」

【佐々木さん】

農業は生産物だけではなく、生産する風景も資源になると思います。地元の風景で生まれた食材をその場で食べて暮らす」という都会の人が抱く理想的な田舎を形成できれば、流動を生み出せるのかなと思います。牛が放牧されている環境でお肉を焼いて食べてもらい、八戸市の種差海岸でキャンプするというちよつと贅沢なプランニングも計画しています。農業の景観も「資源になると」ということを今後周知していきたいです。

【斗沢さん】

当たり前においしいものを、当たり前安定して提供したいというのが一番です。また、青年部長というリーダーシップをとる立場として、地域を盛り上げていきたいなと思います。「コロナ禍の3年間はみんなの気持ちが沈みがちでした。それももう終わったので、希望をもって進んでいける環境をつくれるように、明るく楽しい活動をしていきたいです。」

【松尾さん】

十和田おいらせのブランド野菜「TOM-VEGEE(トム・ベジ)」の良さをもっと広めたいです。私自身、良さはわかっていますが、地元の人にはどれだけ理解しているのかなと疑問に思う時があります。野菜は運ぶのが大変ですが、JAで販売しているプレミアムに比べてパウダーなどの加工品は手軽でいつでも食べられます。もっと広めたいし、消費宣伝にも協力していきたい。

【上明戸さん】

高齢世帯への支援サービスとして配食サービスなどもあって良いですね。せつかくおいしい食材が地元にかくさんあるのだから、もっと地元の人たちに愛してもらって、情報発信につなげていければ良いですね。